

2018 年度（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）事業報告

特定非営利活動法人わかやま NPO センター

◆ 総括

2018 年度は、和歌山県内の NPO の分析、全国の NPO を取り巻く動向などを元に、以下の 3 つの基本方針を設けました。

- ・和歌山県 NPO サポートセンターの指定管理者（第 5 期）の事業を着実に推進します
- ・NPO に関わる人材育成・発掘に努めます
- ・「持続可能」をキーワードに、地域づくりのコーディネートにチャレンジします

まず、2018 年度は和歌山県 NPO サポートセンター（和歌山ビッグ愛 9 階）の指定管理者第 5 期 3 カ年の第 1 年度となりました。それまで 4 期 12 年の実績をもとに、県内各地の NPO を始めとする民間公益活動の支援施設として、また、NPO を取り巻く様々な情勢を的確に把握し、県内 NPO に還元する拠点として、様々な事業を展開しました。市民活動の裾野の広がりに対応した事業が実施できたものと考えております。

NPO に関わる人材育成・発掘については、2017 年度に頂戴した寄附金（通称「湯川基金」）を原資とし、今後のまちづくりに必要な視点を学ぶ講座を開催したほか、地域フォーラム実施事業、地域コーディネーター育成事業の実施などを通じて、新たな地域づくりの担い手づくりを図りました。

国連 SDGs（エス・ディ・ジーズ：持続可能な開発目標）など、様々な分野で「持続可能」がキーワードとして挙げられるなか、NPO をはじめとする市民活動、地域づくり活動も持続可能な取り組みにならなければならない必要があります。先述の地域コーディネーター事業だけではなく、あらゆる場面において SDGs を意識した事業展開を実施しました。

個別計画に対する成果は以下のとおりです。

【1】寄り添う——NPO だけではなく、地域づくりにも積極的に関わります

【1・継続】和歌山県 NPO サポートセンター 第 5 期指定管理者による運営

仕様書に基づく事業はもちろんのこと、和歌山県とも定期的に連携を取りながら、和歌山県が定める地方創生に関わる目標達成（他団体等との連携・協働による新規事業の創出件数）に向けた支援をおこなったほか、NPO サポートセンター自身も連携先団体を増やし、NPO の基盤強化と他団体との連携・協働の促進を図ることができました。

例えば、指定管理者第 5 期から新たに加わった、大規模災害を想定した「被災地支援講座」を海南市社会福祉協議会等との連携で開催し、多くの受講者が集まっただけでなく、この講座をきっかけに新たな取り組みが生まれたほか、わかやま NPO センターの事務所が所在するみその商店街でのイベント開催を希望する NPO 法人と、みその商店街とのマッチングを行うなど、様々な NPO がサポートセンターの事業や相談をきっかけに新たな事業を創出するきっかけづくりを多数担うことができたのも大きな成果となりました。

2018 年度の来館者は前年比微減の 14,200 人あまりとなり、目標の 15,000 人には届きませんでした。2018 年 10 月からはじまった「NPO 法人の貸借対照表の公告制度」などを背景に、相談件数が

3 割伸びたほか、印刷機が和歌山県のご尽力によりカラー印刷対応の高性能機（右写真）になったことなどからサークル活動室のご利用も 3 割もの伸びを記録しました。

その反面、会議スペースの利用者が 15%程度の減少となっており、全体の来館者が微減に転じる要因となりました。NPO 活動がやや停滞傾向にある懸念が感じられるため、会議スペースの利用の PR を継続するなど、利用促進に務めることが求められる結果となりました。

なお、NPO サポートセンターの 2018 年度事業報告は本報告の末尾に縮小印刷にてご紹介しております。



[2・継続] 各種情報発信業務

日刊わかやま新報隔週金曜連載の NPO 紙面「わかつく」（右写真）では、和歌山市近郊の様々な市民活動の事例と、NPO やボランティア団体を取り巻く情勢、まちづくりに関する情報などを交互に掲載し、市民のみなさんの市民活動に対する興味喚起に努めました。また、掲載記事は PDF にて公開しています。

このほか、情報ブログ、わかやま NPO センター Facebook ページ、和歌山県 NPO サポートセンター情報紙「わか愛愛」やメールマガジンなどでも、わかやま NPO センターや和歌山県 NPO サポートセンターの取り組み、各種 NPO やボランティア団体のイベント等の情報、NPO やボランティア団体向けの助成金等の支援情報などの情報発信を実施しました。



[3・継続] NPO 等の持続可能な組織運営につながる支援の実施

和歌山県内の 4 つの NPO 法人の組織運営実務の支援を伴走型でおこない、いずれは団体自らが自立した組織運営ができるよう、支援をおこないました。

また、NPO の組織運営実務への支援をおこなう全国の NPO 中間支援組織で構成する「NPO 事務支援カンファレンス」に参画し、NPO 法人に求められる法定事務をはじめとした様々な組織運営能力向上への取り組みに関与しました。また NPO 法人会計基準協議会や NPO 法人会計力検定協会など、NPO 法人の運営基盤整備に取り組む諸団体とも連携し、NPO 法人の実務能力向上に向けた方策の検討に参加しました。

[4・新規] 地域づくりコーディネート事業

和歌山県内の公益活動活性化のためにいただいたご寄付、通称「湯川基金」を原資に、新たな地域づくりに取り組む個人を支援する地域づくりコーディネート事業を実施しました。

2018 年度は、橋本市城山台地区、高野町筒香・富貴地区、白浜町市鹿野地区において、地域コミュニティの再生や地域の特産品づくりに取り組む 3 人に合計 50 万円を助成し、取り組みが進められました。

[5・継続] 和歌山県人権尊重のまちづくり協定

和歌山県人権施策推進課との間で締結している「人権尊重のまちづくり協定」に基づき、同課からの情報を職員間で共有したほか、NPO サポートセンターにおいて、様々な人権問題に関わっている団体に対する支援を実施しました。

[2] 育てる——NPO に携わる人材の発掘に努めます

[1・継続] NPO に関わる人材の裾野を広げる（他事業と連携して実施）

【1】の[1]や[2]、[4]など他の事業とも重複しますが、人口減少だけではなく、共働き世帯の増加などで NPO だけではなく地域づくりの担い手の減少も叫ばれて久しくなっています。

前述の「地域づくりコーディネート事業」や後述の「地域フォーラム運営事業」、「わかやま・ひとづくり塾」などのように、NPO に興味・関心を持っていただき、将来的に NPO をはじめとする様々な地域づくり活動に参加いただける人材の発掘に取り組みました。

[2・新規] 国連 SDGs に関する情報発信の継続

わかやま NPO センターでは 2017 年からわかやま新報「わかつく」において、和歌山県内でもいち早く SDGs に関する連載をおこなってきました。2018 年度は実際の事業のなかに SDGs の視点を盛り込み、少しずつではありますが、SDGs の考え方を NPO 活動に取り入れていただけるよう、取り組みを実施しました。

昨今では、各種助成事業などでも SDGs の考え方が盛り込まれるようになってきています。近畿労働金庫 NPO パートナシップ制度事業において SDGs をテーマとした取り組みを実施したほか（詳細は後述）、わかやま新報「わかつく」での継続した取り上げなど、様々な機会を通して SDGs の考え方をみなさんにお知らせしました。

[3] つながる——産・官・学・民の連携を一層進めます

[1・継続] 地域フォーラムの運営



2017 年度に引き続き、県内の NPO 等が地域の様々な主体と連携し、これからの地域づくりのあり方を考える「地域フォーラム」の実施団体募集をおこないました。

2018 年度は和歌山市鳴神地区（左写真）、橋本市高野口町内で開かれたフォーラムに対して資金助成するだけではなく、わかやま NPO センターの役職員も運営に携わり、大きな成果を上げることができました。

[2・継続] 行政機関等との連携・協働

橋本市が橋本市社会福祉協議会を指定管理者に指定して運営している「橋本市市民活動サポートセンター」に対して相談員を毎月 2 回派遣しているほか、和歌山市、海南市、田辺市、橋本市、新宮市など

の自治体の各種委員や職員研修、市民向け講座に対して役職員を分担して派遣し、NPO と行政機関との連携・協働の機会創出を図りました。

[3・継続]企業等との連携・協働

2018 年度の企業等との連携・協働の主な実績は以下のとおりです。

1) 近畿労働金庫社会貢献預金「すまいる」寄附事業

近畿労働金庫が 2018 年 3 月まで発売していた社会貢献預金「すまいる」（利息を店頭金利より引き下げ生まれた差額に労働金庫本体からの拠出金を加えて、関西の 11 の NPO 等に寄附を行う事業）からのご寄附を原資に、和歌山県内における防災・減災の取り組みを実施しました。

- ・和歌山城砂の丸広場で開催された「労働者福祉まつり」への防災工作のブース出展
- ・国土舘大学和歌山同窓会と連携した「親子防災講座」への参画
- ・串本町で気象予報士資格を持つ和歌山放送新宮支局・引本孝之さんをお招きした防災講座
- ・近畿労働金庫和歌山県本部と連携した、串本町・すさみ町・古座川町への防災資機材の提供（右写真・今回で紀南の全自治体への提供が完了）

また、新宮・東牟婁労働者福祉協議会からの要請を受け、協議した結果、わかやま NPO センターが 8 月に実施した「西日本豪雨被災地に梅干しを贈ろう」プロジェクトにも資金を拠出しました。



2) 近畿労働金庫 NPO パートナースhip制度事業

近畿労働金庫が関西 2 府 4 県の NPO 支援機関と連携して、様々な地域課題解決に取り組む事業です。2018 年度は、2 府 4 県の共通企画として「地域の居場所」づくりに取り組む団体の視察事業、2 府 4 県が各々実施する事業として国連 SDGs のテーマを取り入れた講座として、SDGs の概略について学ぶことができるボードゲームの開催と、「子どもの貧困問題」について考えるミニシンポジウムを開催しました。

3) 花王ハートポケット倶楽部

花王グループの社員のみなさん有志が 1 口 50 円を積み立てて造成した基金を地域の NPO 等に助成するプログラムです。花王の基幹工場が立地する和歌山県内の NPO・ボランティア団体に対しては 10 年目の地域助成プログラムとなり、史上最多の助成申請をいただきました。

審査の結果、スタートアップ助成（設立 2 年以内の団体向け・5 万円）4 団体、パワーアップ助成（設立 2 年以上の団体向け・10 万円）3 団体が決定し、3 月に助成金贈呈式を開催しました。

4) SAVE JAPAN プロジェクト

損保ジャパン日本興亜と日本 NPO センターが全国事務局を担当し、全国の希少生物酒の保全などに取り組む環境 NPO と地域の NPO 支援センターが連携し、環境保全プログラムを実施するもので

す。2017-2018 シーズン（対象期間：2017年10月～2018年9月）として2回、2018-2019 シーズン（対象期間：2018年10月～2019年9月）として2回のプログラムを実施し、いずれも大盛況のうちに終わりました（右写真）。

なお、2018-2019 シーズンについてはあと1回、2019年4月の開催が残っています。



5) 明治ホールディングス選択寄附制度

明治製菓を傘下に持つ明治ホールディングス株式会社が、株主優待として配布しているお菓子等のうち、株主のみなさんの希望があった分のお菓子等を、各地の福祉施設や、東日本大震災からの広域避難をされている団体等を対象に寄贈するプログラムです。

和歌山県内の対象団体に関する照会に対して団体を推薦し、和歌山県内3団体に寄贈が実現しました。

[4] 築く——わかやま NPO センターの組織基盤強化を継続します

[1・継続] 認定 NPO 法人化

2018年5月14日に「仮認定（特例認定）NPO 法人」期間が満了し、その後認定 NPO 法人化に向けた手続きを進めた結果、2018年10月2日付で「認定 NPO 法人」になることができました。

- ・認定 NPO 法人に対するご寄附は税制優遇の対象となります

寄附金額から 2,000 円を差し引いた額の最大 50%が確定申告で税額控除されます。

わかやま NPO センターの場合、ご寄附以外に、会員会費についても、正会員会費の2口目以降、賛助会費の3口目以降が税額控除の適用対象となります。法人についても、寄附金等の損金算入限度額が大幅に拡大されます（拡大額は資本金やその年度の収益の額によって異なります）。

遺贈についても税制優遇の対象となるほか、わかやま NPO センターの法人税課税の対象となる収益の一部を、法人非課税部分の赤字の補填に使える優遇税制（いわゆる「みなし寄附金」）が適用となります（この2点は仮認定では認められていない制度です）。

[2・新規] 組織基盤強化

わかやま NPO センターが認定 NPO 法人となったことを受けて、組織内ガバナンスと、法令順守などコンプライアンス体制の強化を図るために、じっくりと時間をかけて様々な検討を積み重ね、2019年4月1日から新しい規則・規程のもとで組織運営を開始することができました。

また、会員や寄附者拡大に向けての方策の検討を行い、なかでもみなさまからのご寄附を原資に今後の和歌山の地域づくりを担う人材づくりの一助とするために「わかやま・ひとづくり塾」事業

を立ち上げ、3月23日に第1回学習会「休眠預金活用制度は地域に何をもたらすか」を開催しました（右写真）。今後もこのような取り組みを継続してまいります。

スタッフミーティングの回数を毎月2回とし、情報共有の機会を拡充したほか、内部決裁の仕組みの改善など、持続可能な組織運営に向けた取り組みを始めることができました。各種規程の見直しもスタートし、よりよい組織運営のあり方の検討を進めています。



【5】 提言する ―― よりよい地域づくりのために発言します

【1・継続】 政策提言活動（アドボカシー）

わかやま NPO センターに対する講師や行政からの各種委員派遣の要請については、正副理事長で適任者を選任する体制をこれまでより拡充し、これまでよりも幅広く役職員が対応することができました。なかでも職員の外部講師等の機会が増加したことで、力量形成にも資することができました。

また、休眠預金等活用制度のあり方を考える全国的な取り組みのほか、NPO 法人会計基準協議会主催事業や事務支援カンファレンスの学習会などを通して、現場の NPO の実情をもとに意見を述べたり、情報の提供をおこなったりといった、NPO を取り巻く環境づくりに対する意見表明も積極的におこないました。

【2・新規】 地方議員政策研究会（仮称）

和歌山県内では初めて、いわゆる「自治基本条例」が橋本市で制定されました。これらを念頭に、10月21日にシンポジウム「地域づくりのこれから」を開催（右写真）し、地域自治組織の活性化に関する学びの場を設定しました。

NPO や市民活動関係者だけではなく、県内多くの行政関係者・議員のみなさまにもご参加いただき、各地での取り組みの参考になったという声を多数頂戴しました。また、前述の「地域フォーラム」においても、開催地の地元議員のみなさんが積極的に関与された事例もあり、研究会という形式ではありませんでしたが、今後研究会を実施するための条件づくりは進んだと考えています。



2018 年度 活動のあしあと

わかやま NPO センター主催もしくはわかやま NPO センターの役職員が関係した主な事業をご紹介します。

・ 4 月

- 13 日 NPO 基礎講座・年度末実務編（橋本市）

- 24日 理事会
- ・ **5月**
 - 10日 かつらぎ町社会福祉協議会ボランティア講座職員派遣
 - 14日 木の国協議会委員派遣（岩出市）
 - 22日 田辺市みんなでまちづくり補助金審査委員派遣
 - 25日 近畿ろうきん社会貢献預金すまいる寄附金贈呈式・合同会議（大阪市）
 - 26日 わかやま NPO センター通常総会
- ・ **6月**
 - 6日 NPO 事務支援カンファレンス（東京）
 - 7日 NPO のための ICT 支援者ネットワーク運営会議（東京）
和歌山県労働者福祉協議会寄附講座ゲスト講師派遣（和歌山大学）
 - 12日 きのくに活性化センター通常総会 講師派遣（田辺市）
 - 19日 理事会
 - 25日 木の国協議会委員派遣（岩出市）
- ・ **7月**
 - 2日・9日 木の国協議会・事業報告会／助成金審査会（岩出市）
 - 4日 橋本市 NPO おはなしサロン
 - 6日 SAVE JAPAN プロジェクト中間報告会（東京）
 - 14日 SAVE JAPAN プロジェクト 2017-2018 シーズン第 1 回（和歌浦干潟・アートキューブ）
 - 26日・27日 民間 NPO 支援センターCEO 会議（東京）
 - 28日 SAVE JAPAN プロジェクト 2017-2018 シーズン第 2 回（和歌山県立自然博物館）
- ・ **8月**
 - 23日 和歌山市協働アドバイザー研修 講師派遣
 - 24日 助成金講座（橋本市・和歌山市）
 - 25日 助成金講座（田辺市）
 - 28日 理事会
- ・ **9月**
 - 2日 市民活動まつり（田辺市）
 - 7日 近畿労働金庫 NPO パートナーシップ制度事業会議（大阪市）
 - 11日・27日 和歌山市協働推進委員会
 - 17日 災害ボランティア研修（海南市）
 - 29日 NPO 基礎講座（紀の川市）
- ・ **10月**
 - 5日 NPO 事務支援カンファレンス学習会（広島市）
 - 10日 関西 NPO 支援センターネットワーク会議（大阪市）
 - 11日 NPO 法人会計基準協議会・普及学習会（岡山市）
 - 21日 フォーラム「地域づくりのこれから」（アバローム紀の国）
 - 23日 NPO 基礎講座（御坊市）・理事会
 - 27日 労働者福祉まつり（和歌山城西の丸広場）
- ・ **11月**
 - 3日 地域フォーラム「ワラをもつかむワラ祭り」（和歌山市鳴神地区）
 - 5日 NPO 法施行 20 周年記念学習会（関西学院大学梅田キャンパス）
 - 9日 NPO 法人会計基準協議会・内閣府 NPO 所轄庁会議（神戸市）
 - 10日 親子防災講座（和歌山ビッグ愛）
 - 16日 近畿労働金庫 20 周年記念式典（大阪市）
 - 19日 和歌山市協働大賞授与式
 - 24日 人権フェスタ（和歌山ビッグホエール）

- 27日 SDGs 子どもの貧困を考えるワークショップ①（和歌山ビッグ愛）
- 28日 ろうきんパートナーシップ制度事業会議（大阪市）

・ 12月

- 1日 和歌山市「わかやまの底力・市民提案実施事業」中間報告会
- 2日 地域フォーラム「伊都・橋本あたなる基盤整備プロジェクト」（橋本市高野口町）
- 2日 おもしろ環境まつり（みその商店街）
- 3日 関西 NPO 支援センターネットワーク拡大学習会（大阪市）
- 4日 理事会
- 5日 SDGs 子どもの貧困を考えるワークショップ②（和歌山ビッグ愛）
- 15日 SAVE JAPAN プロジェクト 2018-2019 シーズン第 1 回（和歌山市大川）
- 25日 花王ハートポケット倶楽部和歌山地域助成金「わかやまいきいきファンド」審査会（和歌山市）

・ 1月

- 10日 和歌山市職員研修 講師派遣
- 21日 和歌山県災害ボランティアセンター10周年記念シンポジウム（和歌山市）
- 23日・24日 SAVE JAPAN プロジェクト 2017-2018 シーズン事業報告会（東京）

・ 2月

- 1日 海南市職員研修 講師派遣
- 9日 SDGs 子どもの貧困を考えるシンポジウム（みその商店街 T-labo）
- 11日 紀州っ子アドベンチャーフェスタ（和歌山ビッグ愛）、しんぐう元気フェスタ（新宮市）
- 12日・14日 新宮市職員研修 講師派遣
- 13日 NPO 基礎講座（新宮市）
- 17日 NPO 講座 講師派遣（静岡・袋井市）
- 21日 田辺市職員研修 講師派遣、近畿ろうきん社会貢献預金すまいる備品贈呈（すさみ町・串本町・古座川町）・防災講座（串本町）
- 24日 SAVE JAPAN プロジェクト 2018-2019 シーズン第 2 回（和歌山市大川）
- 25日 NPO 法人会計基準協議会 学習会（東京）
- 28日 理事会

・ 3月

- 6日 花王ハートポケット倶楽部 助成金贈呈式（和歌山ビッグ愛）
- 7日・8日・9日 NPO 基礎講座特別編・休眠預金等活用制度とは（橋本市・和歌山市・田辺市）
- 25日 和歌山市「わかやまの底力・市民提案実施事業」報告会
- 27日 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度事業会議（大阪市）